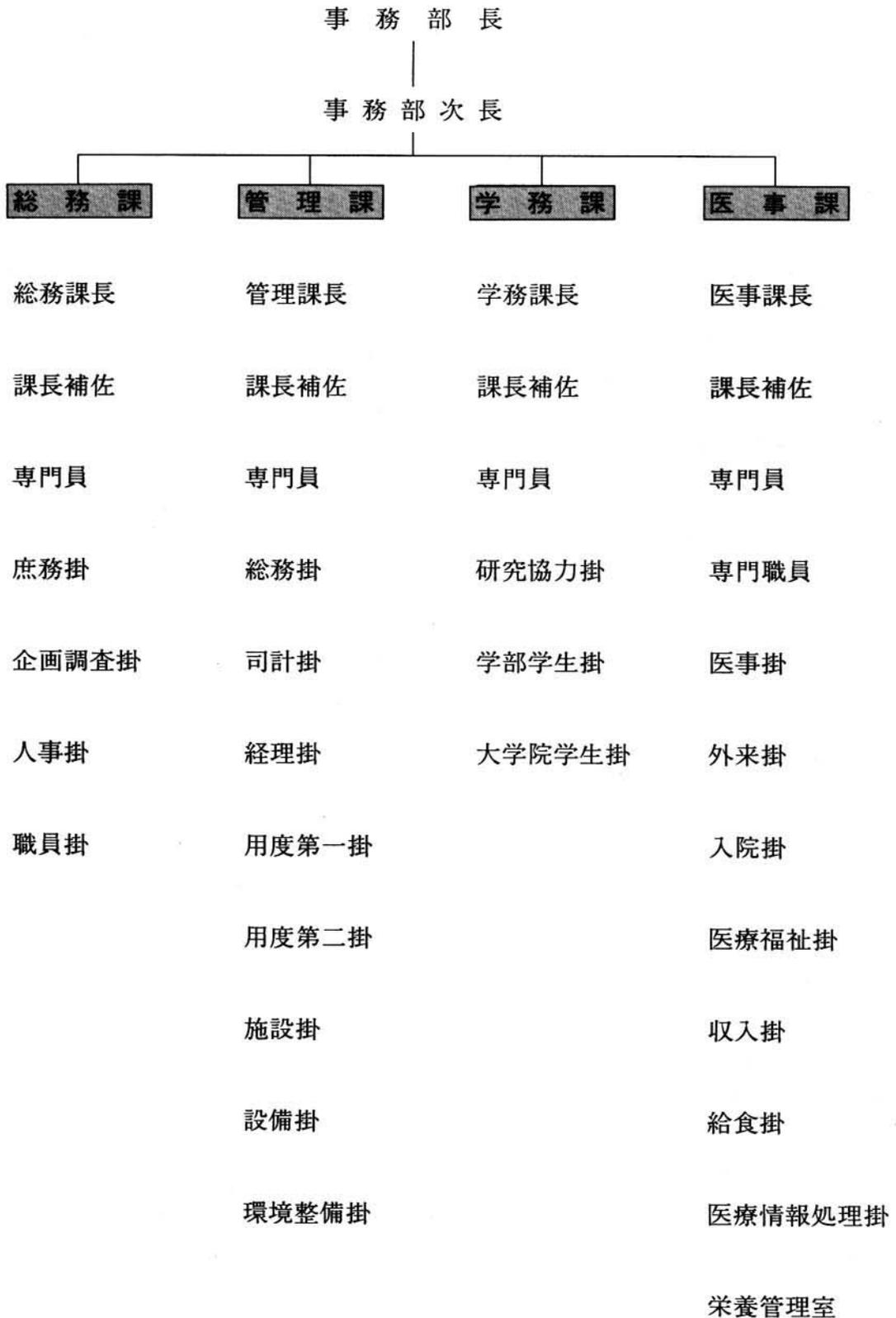


# 1 神戸大学医学部事務部

## 組織図

(平成7年1月17日現在)



## 現 員

(平成7年1月17日現在)

事務部長：堅田徳宏

事務部次長：本田信一

### 総務課

総務課長：佐藤龍之助

課長補佐：塚田利信

専門員：森鼻重光

庶務掛：植木忠節，青木恭子，種田好宏，森下紀子，山本允惟，  
稲上健人，上田進一，長井美義

企画調査掛：西井淳三，吉田清孝，十川洋子，石橋雅子

人事掛：田村正美，仲田保夫，東善和，蘆田壽，中尾陽子，島利枝子

職員掛：荻阪政雄，川端和弘，三岳ひとみ，山本浩嗣

### 管理課

管理課長：谷川成美

課長補佐：足立収，河内克弘

専門員：高木一成

総務掛：小山哲男，山内春代，陰山陽介

司計掛：池田廣信，山本公一，石坂雅志，曾我部秀昭

経理掛：伊藤功，上田一幸，小野早苗，山口秀司，福本恵子

用度第一掛：米田啓一，芝崎敬蔵，入江章夫，奥田都，山口慎二，中出泰介，  
佐藤浩和

用度第二掛：江角義雄，角本妙子，田中守，今井昭史，前田正樹，佐間野俊英，  
石岡優子，上田敏子，高橋紘一

施設掛：西川義弘，小泉律子，佐々木康裕，和住光夫

設備掛：臼井孝夫，下元秀晃，湯川泰伸，溝口清宣，金森隆夫，安福武司，  
藤下勲，前田昌信，三宅力，林壽成，山上収，藤井勝

環境整備掛：長井春男，中村哲也，藤本一光，水野康彦，向田康宏，神田ミノリ，  
和住昭治，湊山寿美，宮内基弘，米田佳男

## 学 務 課

学 務 課 長：河原 宏

課 長 補 佐：坂元敏恭

専 門 員：灘 利光                      専門員付：中山慶子

研究協力掛：高島昇一，小泉雅彦，井上洋子，山内佐智代

学部学生掛：西堂博和，安藤昭治，久保田治子

大学院学生掛：山中昌昭，吉岡智明，稲上正子

## 医 事 課

医 事 課 長：福永 淳

課 長 補 佐：藤本幸男

専 門 員：森次敬典

専 門 職 員：伊藤末博

医 事 掛：今田 敏，貴地邦文乃，守山育子，高下義徳，大林智恵

外 来 掛：田邊信二，宮田隆子，池ノ上邦夫，瀬崎静男，寺川幸子（育児休業中）

島原健治，仲田美香，松下 一，松本恵美，有本由加，寺山静子，安政園子，  
森田久美子，川上理恵，寶山眞弓

入 院 掛：江本一行，豊島美恵子，日指富美子，湯村敏行，池田至成，米原武志，

戸田 宏，綾部光雄，西川元峰，岩佐美保，柳原孝昌，久保井育子，水口朋子，  
北 まるみ

医 療 福 祉 掛：冠崎艶子，細江清子，加古道雄

収 入 掛：島居邦夫，塚崎英二，黒田嘉昭，清水清子，長井勝典，阪本尚樹

給 食 掛：藤本和義，和田健志，仁尾嘉宏

医療情報処理掛：田中素由，藪本義人，河村敏幸，今井 淳，濱口 修，松尾 真，岩本智裕，  
西堂栄子，茶園和之

栄 養 管 理 室：土江節子，今村妙子，戸田明代，岡 育子，辻井智美，藤原 博，広坂重久，

重本陽子，赤松令子，稲田光子，鈴 順子，境 時子，富井路子，村井公子，  
鴈 千代美，佐久間喜美子，今井千里，島田セツ子，伊澤初子，米田恵香，  
杉本末子，高垣佐和子，森岡叡子，松本加代子，大坪庸三，竹原孝一，  
高橋哲司，江籠平恭史，大賀正雄，河西達雄，野崎謙三，藤安 勉

## 2

## 被災状況等

◇ 1月17日(火)午前5時46分 兵庫県南部中心にM7.2の直下型地震発生。

震度7(激震)。余震回数1,364回, 内有感回数158回(2.3まで)。

◇ 震災による死者5,502人(4.14現在), 6,308人(12.26修正, 震災関連死を含む。)

行方不明2人(2.15現在)。

避難者316,678人(1.23現在, 最大数) 319638

避難所1,239か所(1.23現在, 最大数)

神戸市避難所閉鎖(8.20157か所, 4,815人)。

神戸市待機所開設(8.2112か所, 594人 避難所になお4,221人)。

◇ 兵庫県下の倒壊・火災家屋(2.15現在)

全壊: 82,260                      全焼: 7,119

半壊: 62,071                      半焼: 337

◇ 水道

〈断水〉神戸市(約58万所帯) 西宮市(約16万所帯) 芦屋市(約3.3万所帯)の全域等約95万戸。

〈復旧〉神戸市(4.17) 西宮市(2.28) 芦屋市(2.28)。

◇ 電気

〈停電〉神戸市・西宮市・芦屋市・宝塚市で約20万戸。(地震発生時260万戸)

〈復旧〉1月23日午後ほぼ全域で仮復旧。

◇ ガス

〈供給停止〉神戸市8区(東灘・兵庫・長田等)・西宮市・芦屋市等で約85万所帯。

〈復旧〉4月11日(神戸市北区2.13, 西区2.17, 垂水区3.17)

◇ 電話

〈被害〉約19.3万回線が故障。1月17日は通常ピーク時の50倍, 18日は20倍の輻輳。

〈復旧〉1月ほぼ復旧。特設公衆電話約2700台を被災地約760か所に設置。

◇ JR

〈不通〉**新幹線**=京都-岡山。**東海道・山陽線**=尼崎-西明石, 兵庫-和田岬,

**福知山線**=塚口-広野。

〈復旧〉**新幹線**=姫路-岡山(1.18), 京都-新大阪(1.20), 新大阪-姫路(4.8・全線開通)。

**東海道・山陽線等**=尼崎-甲子園口(1.19), 須磨-西明石(1.23) 甲子園口-芦屋(1.25), 神戸-須磨(1.30), 芦屋-住吉(2.8), 灘-神戸(2.20), 住吉-灘(4.1・全線開通)。兵庫-和田岬(2.15)。宝塚-広野(1.18), 塚口-宝塚(1.21)。

## ◇私鉄等

〈不通〉**阪神電鉄**＝甲子園－元町。武庫川線等。

**阪急電鉄**＝西宮北口－三宮，今津－宝塚，夙川－甲陽園，塚口－伊丹。

**山陽電鉄**＝全線。**神戸電鉄**＝全線。**神戸高速**＝阪神元町・阪急三宮－高速長田。

**神戸市営地下鉄**＝全線。**ポートライナー**＝全線。**六甲ライナー**＝全線。

〈復旧〉**阪神電鉄**＝甲子園－青木（1.26），三宮－元町（2.1），青木－御影（2.11），岩屋－三宮（2.20），西灘－岩屋（3.1），御影－西灘（6.26・全線開通）。

**阪急電鉄**＝今津－宝塚（1.19），御影－王子公園（2.13），夙川－甲陽園（3.1），王子公園－三宮（3.13），塚口－伊丹（3.13・伊丹駅仮駅舎），夙川－岡本（4.7），岡本－御影（6.1），西宮－夙川（6.12・全線開通）。**山陽電鉄**＝姫路－明石（1.18），霞ヶ丘－明石（1.27），西代－霞ヶ丘（6.18・全線開通）。**神戸電鉄**＝鈴蘭台以北（1.19），長田－鈴蘭台（2.7），有馬口－有馬（3.31），新開地－長田（6.18・全線開通）。**神戸高速**＝阪神元町－高速神戸（2.1），高速神戸－新開地，花隈－新開地（2.7），阪急三宮－花隈（6.1），新開地－高速長田（8.13・全線開通，大開駅を通過，H8.1.17 復旧）。**神戸市営地下鉄**＝西神中央－板宿（1.18），板宿－新神戸（2.16・全線開通，新長田〈3.10復旧〉，上沢〈3.31 復旧〉，三宮〈3.10復旧〉を通過）。**ポートライナー**＝島内部（5.22），全線（7.31）。**六甲ライナー**＝島内部（5.12），魚崎－アイランド北口（7.20），全線（8.23）。**六甲ケーブル**＝再開（7.21）。**六甲有馬ロープウェイ**＝再開（10.7）。

## ◇バス

代替バス開始（1.23）。国道43号線・西宮市－灘区バスレーン設置（1.28）。神戸市営バス全線運転再開（6.22）。

## ◇道路（9月末現在）

国道43号線＝1.28開通。国道2・43号線＝2.1車両規制による通行開始（2号線－平日6時～9時，43号線－平日6時～19時の間一般車両規制）。その他県下の各地国道は路面及び構造復旧中。

阪神高速＝13路線で被害。神戸線（尼崎東－月見山不通），湾岸線（7.1開通）及び北神戸線で平日一般車両通行規制。

中国自動車道＝上り津山－吹田，下り吹田－山崎不通。1.17開通。

名神高速道＝京都西－西宮不通。京都－吹田（1.23），吹田－豊中（1.31），豊中－尼崎（2.17），尼崎－西宮（4.20・上り）開通。

## 3

## 大震災から6か月

月 日	事項（7月17日付け神戸新聞から抜粋）	医学部・附属病院 事 項
1. 17 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>午前5時46分兵庫県南部中心にM7.2の直下型地震発生</li> <li>神戸、北淡町で震度6</li> <li>判明死者1,590人、不明者1,017人（県警発表）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">医</span>：8時50分頃復旧</li> <li><span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">病</span>：10時50分頃復旧</li> </ul>
1. 18 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>東灘でLPGタンクからガス漏れ、7万人に避難勧告</li> <li>西宮市仁川の大規模土砂崩れで生き埋めになった34人の救出活動、29日間で全遺体を収容</li> <li>北淡町、一宮町で合同葬儀</li> <li>判明死者2,577人、不明者901人（県警発表）</li> </ul>	
1. 19 (木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>三宮などで再炎上</li> <li>村山首相が被災地視察</li> </ul>	
1. 20 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>神戸市内で火災続発</li> <li>都銀などが預金払い戻し開始</li> <li>避難所に避難住民28.3万人（県発表）</li> <li>断水95万所帯、ガス停止85万所帯</li> <li>気象庁が初の震度7（激震）判定</li> </ul>	
1. 21 (土)		<ul style="list-style-type: none"> <li>井出厚生大臣来部、来院</li> </ul>
1. 22 (日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>余震発生1,000回、うち有感105回（気象庁発表）</li> </ul>	
1. 23 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>休校中の小、中、高校のうち約180校の児童、生徒が登校</li> <li>死者5,000人超す。避難所の避難住民約31万人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文部省菊地医学教育課課長補佐ほか2人来部、来院</li> </ul>
1. 24 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>政府が激震災害指定</li> </ul>	
1. 25 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>私立中、高校が入学試験延期</li> </ul>	
1. 26 (木)		<ul style="list-style-type: none"> <li>全診療科の外来診療再開</li> <li>水道 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">病</span>：仮復旧</li> </ul>
1. 27 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>神戸市が仮設住居入居申込受付</li> </ul>	

月 日	事 項(7月17日付け神戸新聞から抜粋)	医学部・附属病院 事 項
1. 28 (土)		・与謝野文部大臣来部, 来院 ・給湯 <sup>病</sup> : 復旧
1. 29 (日)	・神戸市が損壊家屋解体申込受付	
1. 30 (月)	・転校児童, 生徒が1.5万人超	・授業再開等説明会開催
1. 31 (火)	・天皇, 皇后両陛下が被災地ご訪問	
2. 1 (水)		・予約診療受付再開
2. 4 (土)	・東灘で新たに2断層発見	
2. 5 (日)	・長田で合同葬	
2. 6 (月)	・り災証明書発行開始	
2. 7 (火)	・気象庁が震度7地域を大幅拡大	
2. 9 (木)	・神戸, 西宮市選管が統一地方選延期を要望	
2. 11 (土)		・雪御所公園救護所開設 (~ 3. 31)
2. 12 (日)	・西宮市で義援金, 県災害援助金の支払い票発行	
2. 13 (月)		・水道 <sup>医</sup> : 仮復旧 ・暖房 <sup>病</sup> : 仮復旧
2. 14 (火)	・海上保安庁が大阪湾で8断層確認	・文部省吉田高等教育局長来部, 来院
2. 16 (木)		・大学院入学試験実施 (~ 2. 17) ・ガス <sup>病</sup> : 仮復旧 ・暖房 <sup>医</sup> : 仮復旧
2. 17 (金)	・震災1か月避難所生活者は21. 2万人	・大震災犠牲者への黙祷実施
2. 19 (日)	・関学大, 武庫川女子大が被災学生の学費免除を決定	
2. 21 (火)		・ガス <sup>医</sup> : 仮復旧
2. 22 (水)	・阪神高速走行中の被災死亡者に労災認定 ・「大震災復興基本法」成立	・自由民主党政務調査会文教部会委員5人来部, 来院
2. 24 (金)	・そごう神戸店がパート379人の再契約断念	・前期日程入学試験実施
2. 26 (日)	・西宮, 芦屋市で合同慰霊祭 韓国国民団などで合同慰霊祭	
2. 27 (月)	・採用内定取消しの高校生が県下で181人	
3. 1 (水)	・「さんちか」が一部営業再開	
3. 3 (金)	・避難所の被災者10万人割る	
3. 4 (土)	・明石市で合同慰霊祭	
3. 5 (日)	・神戸, 宝塚, 尼崎市で合同慰霊祭	

月 日	事 項 (7月17日付け神戸新聞から抜粋)	医学部・附属病院 事 項
3. 7 (火)	・パート解雇2,000人に	
3. 9 (木)	・神戸まつり中止決定	
3. 10 (金)	・神戸阪急デパート, モザイクが営業再開 ・震災失業者6,000人に	
3. 13 (月)	・被災8市で2.2万人以上が転出 ・ボランティア延べ100万人	・後期日程入学試験実施
3. 16 (木)	・あしなが育英会が震災遺児504人, 孤 児103人と発表	
3. 17 (金)	・神戸市が東部臨海部等24重点復興地域 を決定	・神戸大学合同慰霊祭
3. 23 (木)		・修士, 博士学位記授与式
3. 24 (金)		・神戸大学卒業式
3. 27 (月)	・芦屋市が復興予算案否決	
3. 31 (金)	・震災失業者1.3万人超す	
4. 2 (日)	・神鋼神戸製鉄所で高炉再火入れ	
4. 3 (月)		・特例入試実施
4. 4 (火)	・神戸私営観光バスガイドが震災解雇は 不当と地位保全の仮処分申請	
4. 5 (水)	・芦屋浜シーサイドタウンで液状化現象拡大 尼崎市では全域で地盤沈下	
4. 6 (木)		・神戸大学入学式 ・人事院実地調査
4. 7 (金)	・神戸市が三宮駅南に大地下街構想	
4. 8 (土)	・大丸神戸店が営業再開	
4. 11 (火)	・震災復興宝くじ発売	
4. 13 (木)	・県内の外国人死者は9か国179人	
4. 14 (金)	・東灘の倒壊アパートから女性の遺体発 見, 震災死者は5,502人に	
4. 16 (日)	・伊丹, 宝塚, 明石など8市議選告示 ・そごう神戸店が営業再開	
4. 20 (木)	・震災で破産急増, 神戸地裁管内で30件	
4. 23 (日)	・伊丹, 宝塚両市議選の投票率は過去最低	
4. 25 (火)	・連合系がメーデーのパレード中止を決定	
4. 27 (木)	・自衛隊が完全撤収	

月 日	事 項 (7月17日付け神戸新聞から抜粋)	医学部・附属病院 事 項
5. 7 (日)	・被災分譲マンション協議会が発足	・設備災害復旧費執行事務室開設 (～9. 30)  ・建物復旧工事開始 (～9. 30)
5. 8 (月)	・県教委が仮設1,307教室にエアコン設置を決定	
5. 11 (木)	・震災原因の生活保護申請539世帯	
5. 12 (金)	・大雨で三宮の解体待ちビル倒壊	
5. 19 (金)	・復旧工事関連の労災死者16人に	
5. 22 (月)		
5. 23 (火)	・義援金2次交付の受付, 仮設住宅8,300戸追加建設決定	
5. 25 (木)	・長田の菅原市場がプレハブ店舗で再開	
5. 26 (金)	・来春の小学社会科教科書に「震災」記述	
5. 27 (土)	・仮設住宅で孤独死	
5. 30 (火)	・伊丹市が賃貸住宅再建のため家主, 入居者に補助 ・尼崎市が来春の新卒職員採用見送り	
6. 1 (木)		
6. 2 (金)	・県議選, 神戸市議選告示	
6. 4 (日)	・尼崎市長, 同市議選告示, 西宮市議選告示	
6. 8 (木)	・芦屋市が基本構想	
6. 9 (金)	・西宮市が復興計画	
6. 11 (日)	・被災地選挙開票, 無党派は新風吹く	
6. 15 (木)	・外国人の未払い医療費にNGOが肩代り基金	
6. 16 (金)	・県教委が高校でボランティア教科設置方針	
6. 17 (土)	・定住外国人生活復興センター開設	
6. 18 (日)	・芦屋市が全避難所閉鎖	
6. 20 (火)	・神戸市商業地価が平均10.8%下落	
6. 22 (木)	・ドイツ総領事館が大阪に移転決定	
6. 23 (金)	・廃材の野焼き残灰からダイオキシン検出	
6. 25 (日)	・神戸港に震災後初の外国客船	
6. 27 (火)	・震災理由の解雇無効と神戸地裁	
6. 29 (木)	・尼崎市が震災死者20人追加認定	
7. 6 (木)	・大雨で六甲山麓に避難勧告	
9. 14 (木)		・参議院文教委員10人来院

## おわりに

平成7年1月17日、午前5時46分、阪神・淡路地域を突如襲った「兵庫県南部地震」は、直下型大地震として神戸市とその周辺都市に未曾有の被害をもたらした。私は神戸市中央区の公務員宿舎でこの地震に遭遇した。この朝は何故か5時過ぎに目が覚めていた。

一瞬何が起こったのか判断がつかなかった。寝起きでポーとしていたこともあり咄嗟には地震が起きているとの意識はなかった。近くで何かが爆発したのかと思った。とにかく10分以上は座って頭を抱えていた。地震だと気がついた時には、もちろん停電しており玄関の下駄箱の上に釣り用のヘッドライトを置いてあったのを思い出し手探りで探し、明かりを点けた。高さ30センチ程の台からテレビは1メートルはふっ飛び、掛時計は隣の部屋まで転がり、単身赴任で数少ない食器類も破損散乱しており大きな地震が起きたのだと仰天した。

電話のベルが鳴った。病院の当直者からで直ぐ出勤するようにとの要請の電話であった。地震直後は、電話も普段どおり通じた。まだその時は建物が倒壊するような地震だとは想像もしていなかった。

ヘッドライトの小さな明かりの中で着替えをしながら、厳寒の時期であったにもかかわらず緊張のあまりか寒さは感じなかった。徒歩で宿舎を出たのは6時20分頃だと思う。途中では倒壊した家、倒壊しかけた建物を見て身振いをしながら、薄明りの中、亀裂や波が押し寄せたように膨れ上がった道路を歩くのは危ない限りであった。被災した建物の多さや道路の亀裂の大きさを見てこれは大災害になったなとことの重大さに驚くと同時に、病院の10階建のあの病棟はどうなっているかと気を揉みながら急いだが通常より時間がかかった。

病院到着当時は、まだ救急患者は外傷者が多かったように思う。自家用車に乗せられたり歩いて来院する患者の多くは頭や手足に血がこびりついている。時間が経つにつれ重症の患者が増えてきた。医師や看護婦は患者が運び込まれるたびに右往左往しながら治療にあたっていた。医学部も附属病院も幸い建物の倒壊は免れたが各所に破損、亀裂が生じていた。設備も各所で破損しており、水もれ・ガスもれの点検等で施設掛の技術職員も対応に追われていた。こんな時我々事務職員は何をすればよいのか対応が直ぐには考えつかない。昨夜からの当直者はとにかく押し寄せる患者やその家族の対応に当たっていた。

学部長、病院長、事務部長に連絡を取ろうにも交換台の電話は不通であった。院内の公衆電話の2か所が通話できることが分かったが、その電話も患者やその家族で既に長蛇の列であった。ようやく病院長とは連絡が取れた。病院長の指示により地震災害対策本部が設置された。救急部にも救急患者対策本部が置かれた。そのうちに救急受付は患者が廊下にあふれストレッチャーが通れないような有様となった。総務課長を初め出勤してきた事務職員らで外来待合室の長椅子を廊下に並べて患者の応急ベッドを作り、1階外来廊下が臨時の病棟となった。また、不幸にして亡くなられたご遺体を臨時に設置した遺体安置所に運んだ。外来玄関には徐々に近隣の被災者が集まり始めた。病院は避難所にはなっていないが、今は避難してくる人達をどうすることもできない。

病院の玄関から見えた長田区の火災は、2日間絶え間なく煙や炎を出し続けた。

電気は、震災後間もなく復旧したが、水道、ガス、交通網等途絶の中で我々事務職員も徒歩又は自転車等で出勤し、1か月近く暖房もない厳寒期を余震の続く事務室の床に寝泊まりし、風呂にも入れず、不眠不休の勤務を余儀なくされた。

この間、文部省を初め全国の国立大学、附属病院から人的、物的に多面にわたってご支援をいただいたことは本当に心強くありがたかった。なお、震災後混乱していたこともあってご支援をいただきながらいろいろと不行届きがあったことについてはお詫び申し上げたい。

全国の国立大学、附属病院から医薬品、食品、日用品等多くのご支援をいただいたが、各大学からの搬送が、交通機関及び道路の遮断や渋滞のため予定時間どおりにことが進まず、昼夜の別ない対応を余儀なくされることになった。特に水道、ガスが使用できなかったため、生活には欠かせない1日3食の入院患者の給食や職員の食事の数量の把握、支援依頼、配分等食料確保のための対応は大仕事であった。

震災から既に9か月が過ぎようとしている。建物の倒壊こそ免れたが破損、亀裂が生じ、設備も多くの被害を受け、教育、研究、診療に少なからず支障をきたしたが医学部に「復興委員会」が設置され、事務部には「復興事務室」を設置して復旧に努めてきたこともあってようやく元の姿に戻りつつある。

「災難は、忘れた頃にやってくる」といわれるが、いつ、どこで、何が起こるか解らない。この度のような災害時に十分に対応ができるマニュアルを作ることが必要なことは言うまでもないが、常日頃から災害時にはどう対応すればよいか一人一人が自覚しておくことも必要ではないか。神戸大学ではこの地震で教職員・学生の41人の尊い命が奪われている。

神戸大学医学部としては、この度の大地震の活動記録を残すために「震災記録委員会」を設置し、「医学部震災記録誌」として刊行することになり既に編集に着手しているが、この「医学部震災記録誌」とは別に事務部においても被災地で唯一の国立大学医学部・附属病院に勤務した事務職員として、この震災にどのように対応してきたか、もっと細かく活動の記録を残し、この経験を教訓として今後の災害対策に役立たせることができないか、また、他大学の参考にもなればということから事務部長の発案で本誌を刊行することになった。

おわりに、平成7年の神戸・淡路大震災の年の例年になく酷暑が続いた盛夏を神戸大学医学部事務職員として、震災の復興に昼夜を問わず努めていただいた皆さん、それから「震災シンポジウム」「医学部震災記録誌」のお世話をし、また、本誌編集を担当していただいた皆さんに感謝し、本当にお疲れ様でしたと申し上げます。

「おわりに」の言葉をとのことであつたが、この大地震を神戸の中心地である三宮近くの公務員宿舎で体験した者として体験談を加えて記させていただいた。

事務部次長

本 田 信 一

## 編集後記

神戸大学医学部事務部が作成する阪神大震災記録誌作成の提案が事務部長からなされたのは、医学部の震災記録誌の編集作業がようやく軌道に乗らせた今年5月であった。

この事務部の記録誌は、総務課課長補佐をチーフに4課から構成された6人による編集委員会が担当することになった。数回の編集会議で執筆項目及び執筆担当課を決定し、執筆者の選定は各編集委員に一任した。4月の人事異動で既に医学部を転出した職員にもお願いしたが、快くお引受けいただき編集委員として嬉しい限りであった。夏休み中に執筆してもらおうべく締切りを8月下旬としたが、締切り前に提出があった原稿、仕事の関係からか提出が遅れた原稿などもあったが、なんとか当初に予定した原稿が出揃った。

多くの方々に執筆をお願いしたため原稿に個性が出るのも当然であり、そのまま載せるのも一法であるが、まとまりのあるものとするため、ある程度は編集委員の独断で加筆添削をさせていただいたところもある。そのため執筆者の意図する内容を多少ゆがめてしまった部分もあるかもしれないが、その責任は編集委員会にあり、それぞれの執筆者の氏名を挙げないことと共にお許し願いたい。また、内容の重複部分もまみうけられるが、これについては執筆者の意向を尊重して掲載した。なお、「被害状況及びその対応」を補足するためにも9人の方々から体験談をいただいた。体験談は各人の文章のスタイルを尊重するために原稿どおり掲載することとした。執筆していただいた多くの方々には、ご多忙のところ時間を割いていただき本当にありがとうございました。

この地震は全く想像もしていなかったことであり、また、地震直後は記録する余裕もなかったことでもあり、執筆者の記憶に頼った部分が多々あったことと思われるが、それにしてもその時の事務職員の状況を詳しく残すことができたのは、いかにこのショックが大きいものであったかがうかがわれる。今でもふとした時に揺れを感じるのは私だけであろうか。

このささやかな記録誌がなんらかの参考になれば幸甚です。

編集委員 小谷 寿之（総務課課長補佐）  
植木 忠節（総務課専門職員）  
唐津 功（総務課専門職員）  
小山 哲男（管理課総務掛長）  
山中 昌昭（学務課大学院学生掛長）  
伊藤 末博（医事課専門職員）